



ありあけ

佐賀大学農学部
同窓会報

No.24

発行日 2019年7月1日
編集 会報編集委員会

発行 佐賀大学農学部同窓会
住所 佐賀市本庄町1 佐賀大学内

TEL 0952-23-1253 FAX 0952-25-5700
E-mail dousoukai@sadai.jp
ホームページ <http://sadai.jp/alumni/nougakudousoukai/>

巻頭言



新たな時代を迎えた佐賀大学農学部

佐賀大学農学部長 小林元太

第23代の農学部長を拝命した小林元太でございます。農学部同窓会の皆様方には、常日頃から本学部・研究科の教育・研究の発展のために温かいご支援を賜り、心よりお礼を申し上げます。

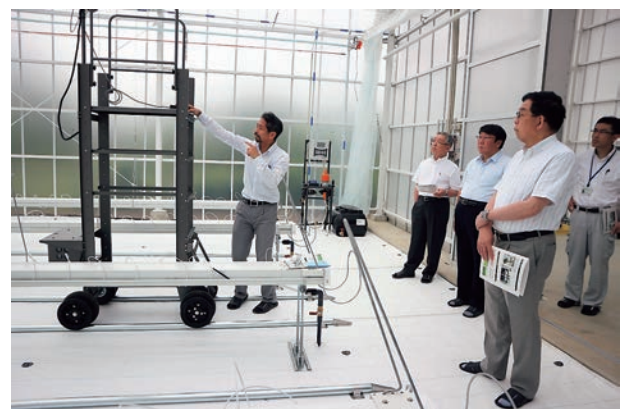
さて、農学部は昭和30年の設置以来たゆまず成長してきており、農学科1学科で発足した学科も、昭和43年には4学科（農学科、農業土木学科、農芸化学科、園芸学科）となり、その後の改組を経て、平成18年に3学科体制（応用生物科学科、生物環境科学科、生命機能科学科）となりましたが、平成31年4月に生物資源科学科1学科4コース（生物科学コース、食資源環境科学コース、生命機能科学コース、国際・地域マネジメントコース）体制として再出発しました。今回の改組では、1年次に多くの共通教育を開講し、1年生全員が同じ科目を履修し、多様な専門分野への理解を涵養し、2年次に各コースへ配属するレイトスペシャライゼーション制度を導入しました。特に、専門導入科目として、アグリキャリアデザイン、農学概論、農業ICT学などの社会的ニーズに応える新しいカリキュラム体制を整備

しました。また、平成31年度入学生から、食と農に関する基礎技術を習熟・定着させることを目的とした「食農基礎技術マスタリー特別教育プログラム」を新しく開設しました。さらに、入試制度に関しても、従来の一般試験・推薦入試のみならず、コース毎にそれぞれのコースの特徴に見合ったAO入試Ⅰ・Ⅱを導入しました。

最近の農学部のトピックスとして、「地域の農水圏生物生産・利用技術等の高度化」（通称 農水圏プロジェクト）事業があげられます。本事業は様々な問題を抱える地域の農・水産業の課題解決・発展を図ることを目的としています。そのために、農水産物生産技術だけではなく、利用技術等の高度化も図り、農水産業を六次産業化することで、より収益率の高い地域産業へと成長させるとともに、地元地域に対して高い専門知識・技術を持った人材を供給することで、地域における自律的な農水産業の発展を促すことを想定しています。



植物工場外観



植物工場設備を宮崎学長に説明する後藤文之教授

農学系分野では、最新鋭の植物工場による先進的な施設園芸を実践することにより、農産物の高品質・高付加価値化を目指した栽培技術の確立を目指した研究を行うとともに、高度な栽培制御技術を身につけた指導的人材を育成することを目指しています。またこれらの特性を活かした加工技術についての研究も進め、佐賀大学発の農産物ブランド化戦略に貢献することを目指します。改組によるカリキュラムの改編に伴って農学部全学生が農場実習を履修することとなり、これまでの農学（生物）系分野の学生のみならず、化学系学生に対する農場実習を食品加工分野においても実施するためにアグリ創生教育研究センター・食品加工場の整備を検討しています。

一方、水産学系分野では、「水産物の高品質・安定生産を目的とした研究拠点化」を目指しており、ノリや二枚貝等の水産資源の遺伝子解析や代謝解析等を実施するとともに、佐賀県水産業の発展に寄与

する高度な技術を身につけた指導的な人材を育成することを目的としています。言うまでもなく、佐賀県におけるノリの生産量、生産額は全国一であり、農業のみならず水産業を含む第一次産業について、高度な知識・技術を持った人材に対する地元地域のニーズは高いものがあります。しかし、佐賀大学には水産学教育の場が全くなく、地域の教育ニーズに応えられていないのが現状でした。そこで、佐賀県有明水産振興センター前センター長を特任教授として農学部にも戦略的に配置し、小規模なスケールでの実験しかできない現状を解決するために既存設備を改修し、ノリ・二枚貝研究を中心とした水産学研究の基盤的研究施設の整備を実施しました。

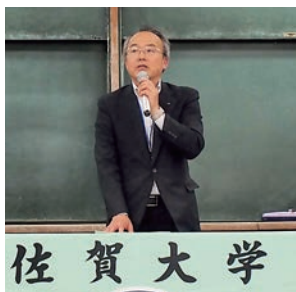
同窓会の皆様方には、地域の農水産業の振興の使命を果たすべく、農学部の新たな飛躍と発展を見守っていただければ幸いに存じます。

第34回（令和元年度）同窓会総会を開催

～講演会・アトラクション・懇親会～

【総会】

農学部同窓会では、令和元年5月18日（土）に農学部大講義室で、第34回総会を開催しました。当日はあいにくの雨でしたが、来賓として恩師の内田泰先生をはじめ、小林元太農学部長、田中宗浩食資源環境科学コース長、山崎欽哉農学部事務長、山口久美子有朋会副会長をお迎えし、また、県内外の各支部から61名の同窓生の参加をいただきました。



総会では、物故会員への黙祷、小池良美会長の挨拶に続き、山口郁雄氏（S52年卒 農・経）を議長に選出し、①平成30年度事業報告及び収支決算、②令和元年度事業計画及び収支予算、③役員を選任について審議いただきました。

いずれの議案も賛成多数で承認され、新しい令和時代を迎え会員間の絆をより強固にし、同窓会活動



を一層活性化させていくことになりました。

また、総会のなかで、農学部同窓会の草創期から30年余の永きにわたり会の発展にご尽力いただいた田中欽二先生（S39年卒 農・保）に会長から感謝状を贈呈しました。



【講演会：記念講演・情報提供】

総会后、今年4月に農学部長に就任された小林元太教授に「新たな時代を迎えた佐賀大学農学部」と題して記念講演をいただきました。

講演では、変化の激しい時代の中で、「農学部の立ち位置を明確にして、いかに農学部らしさを出していくか」という視点から、応用生物科学科・生物環境科学科・生命機能科学科の3学科体制から「生物資源科学科（生物学コース・生命機能科学コース・食資源環境科学コース・国際・地域マネジメントコース）」の1学科4コース制に学部を改組した背景とねらいについてわかりやすく講演していただきました。



農学がボーダレス化していく中で、今後、「食料」「生命」「環境」「エネルギー」「健康・長寿」「地域社会」等を対象に、幅広い知識と問題解決能力を備え、国内はもとより国際的にも活躍できる人材を育成していくこと、具体的にはレイトスペシャライゼーションの導入に対応した1年生全員への実践家等のキャリアアップの経験等を学ぶ「アグリキャリアデザイン」等の専門導入科目の開設や入学から卒業までの4年間を実習・インターンシップを重視した「食農基礎技術マスター特別教育プログラム」など新しい教育プログラムの導入、さらに学部・研究科の改組に伴う機能強化として、IT農業や食品機能研究等に加え、新たに有明海を対象とした「農水圏プロジェクト」や「ハブ型ネットワークによる有明海と地域共同観測プロジェクト」等に関連機関等と連携して取り組んでいくことなどを講演していただきました。今後、「地域における知の拠点として」「地域創生の核として」農学部がますます発展していくことを期待したいと思います。

続いて、情報提供では、佐賀県で20年ぶりにイチゴの新品種「いちごさん」がデビューしましたが、新品種の開発と栽培技術の組み立てに長年携わってこられた岡和彦氏（H元年卒 農・作、現在は佐賀県農業技術防除センター）に「「いちごさん」の誕生まで」と題して講演をいただきました。

16085株から「いちごさん」を作出・選抜するま



での苦労や創意工夫、さらに栽培実証や消費者の評価を得るまでの研究者、生産者、JA、行政等との連携した取り組みを説明していただきました。今後、日本を代表する「美味しいいちご」としてトップブランドになることを期待したいと思います。

【アトラクション】



講演会のあとは、佐賀大学混声合唱団コーロカンフォラの合唱により、農学部60周年記念事業で作成した農学部の歌「学部歌」と「学生歌」の2曲と、「365日の紙飛行機」他、爽やかな歌声を披露していただきました。

【懇親会】

懇親会は生協の「かささぎホール」に場所を移し、約60名の同窓生の参加をいただいて開催しました。来賓として恩師の内田泰先生をはじめ、小林元太農学部長、穴井豊昭農学部副学部長、山口久美子有朋



会副会長、笠原幸雄楠葉同窓会理事、古島智恵医学部同窓会幹事、島公二武理工学部同窓会副会長様ほか多数の大学関係者のご参加をいただき、また川副操佐賀大学同窓会長からお祝いのメッセージをいただきました。大久保惇先輩（S47年卒 化・肥）の乾杯から懇親会は始まり、佐賀大学オリジナル清酒「悠々知酔」を味わいながら、和やかな雰囲気、各テーブルで思い出話に花が咲いていました。閉会前に、水田和彦副会長による「巻頭言」の披露と、佐賀大学学生歌「楠の葉の」を参加者全員で肩を組んでの大合唱となりました。

そして、最後は、小池由恵さん（H13年卒 生・動物）の力強い万歳三唱でお開きになり、在校生・教職員・卒業生の交流の場として楽しいイベントにすることができました。

次回も、できるだけ多く会員の皆様のご参加をお待ちしています。

瀬尾裕一（S63年卒 農・育）



■ 令和元年の役員選任

令和元年度の役員の一部選任により、副会長に佐賀大学の田中宗浩氏、理事に佐賀大学の吉賀豊司氏、佐賀県庁支部の真崎嘉隆氏、佐賀県庁支部長に成澤義和氏、熊本県庁支部長に緒方久幸氏が新たに選出されました。

佐賀大学ホームカミングデーの開催

【期日】 令和元年11月16日(土)午後～ 【場所】 佐賀大学本庄キャンパス

【目的】 佐賀大学の卒業生に母校を訪問してもらい、母校の現状を知り、恩師、学友との再会と交流を深め、今後の母校への御理解と御支援をいただければ幸いです。

【対象】 卒業年等にかかわらず、すべての同窓生と本学の名誉教授

【内容】 大学の近況報告、講演、懇親会等
(懇親会に御参加の場合、参加費が2,000円必要です。)

※詳しくは、佐賀大学校友会のホームページ

(URL <https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp/>) の「お知らせ」を御覧ください。

【申し込み・連絡先】

校友会事務局

Email: koyukai@mail.admin.saga-u.ac.jp

電話：0952-28-8154

会費納入のお願い

この会報をお届けしている会員の皆様には、会費納入いただいておりますことに対し、まずもって厚く御礼申し上げます。近年、会費納入がたいへん細っており、いろんな機会に納入支援をお願いしているところです。ただ、同窓会のことを忘れず、きちんと毎年納入いただいている会員がいらっしゃることは、同窓会役員・事務局にとっての励みでもあります。

今回、終身会費を納入いただいた方以外の会員各位に「振込用紙」を同封させていただいております。納入いただきました会費（1年、3年分）の期限が到来していない方もいらっしゃいますが、ご容赦ください。とりわけ、終身会費30,000円（70歳以上は15,000円）は、いささかお願いするには恐縮至極ですが、この先、会員それぞれの節目となるような「年」にご検討いただけないものかとの思いであります。よろしくお願いたします。

【同窓会役員・事務局一同】

平成30年度事業報告および収支決算

(H30.4.1～H31.3.31)

■事業報告

平成30年度において、次の事業を執行し、農学部同窓会の円滑な運営、支部活動の充実に努めました。

- ①大学と同窓会との意見交換会を開催するなど相互に連携した取組を行った。
- ②在学生支援として在学生・教職員・卒業生の交流会を開催した。
- ③大学主催の就職ガイダンスの講師として会員を派遣した。
- ④会員などの投稿により、会報「ありあけ」第22、23号を発行・配布した。
- ⑤農業版MOTの取組に連携して協力支援を行った。
- ⑥農学部及び全学同窓会支部の総会等に役員が参加し交流を図った。
- ⑦同窓会員名簿のデータ管理、会員への閲覧を行った。

■収支決算

(1) 一般会計

【収入の部】

単位：円

科 目	30年度決算
前年度繰越金	131,974
会 費	3,143,000
学生（新入生）	2,926,000
一般会員	217,000
雑 収 入	476,004
特別会計戻入	600,000
計	4,350,978

【支出の部】

単位：円

科 目	30年度決算
事 務 費	967,158
会 議 費	454,580
事 業 費	558,268
組 織 強 化 費	318,176
全学同窓会負担金	1,463,000
特別会計への繰出金	371,500
学生入会金	66,500
会費平準化準備金	105,000
寄付金	200,000
予 備 費	340
計	4,133,022

※収入4,350,978－支出4,133,022＝217,956（次年度繰越）

(2) 特別会計

【収入の部】

単位：円

科 目	30年度決算
前年度繰越金	13,062,893
一 般 分	6,711,408
会費平準化準備金	6,351,485
入 会 金	66,500
会費平準化準備金	105,000
雑 収 入	200,545
計	13,434,938
一般分	6,977,914
会費平準化準備金	6,457,024

【支出の部】

単位：円

科 目	30年度決算
繰出金	600,000

※差引 12,834,938は次年度繰越

令和元年度事業計画および収支予算

(H31.4.1～令和2.3.31)

■事業計画

- ①会員に対し同窓会をより身近なものとしていくため、支部の体制・活動をより充実するとともに、会報を発行するなど各種情報の提供を行う。
- ②更なる組織の強化・活性化を図るために、支部未加入者を対象として既存支部への加入促進や、地域組織との連携を図る。
- ③農学部と同窓会との意見交換会を開催するなど、相互に連携した取組を行う。
- ④準会員である学生に対する支援を行うとともに、卒業生との交流促進に取り組む。
- ⑤農業技術経営管理士（農業版MOT）養成の取組に連携して協力支援を行う

■収支予算

(1) 一般会計

【収入の部】

単位：円

科 目	元年度予算
前年度繰越金	217,956
会 費	3,560,000
学生（新入生）	3,080,000
一般会員	480,000
雑 収 入	132,044
特別会計戻入	800,000
計	4,710,000

【支出の部】

単位：円

科 目	元年度予算
事 務 費	1,160,000
会 議 費	450,000
事 業 費	800,000
組 織 強 化 費	330,000
全学同窓会負担金	1,540,000
特別会計への繰出金	370,000
学生入会金	70,000
会費平準化準備金	300,000
予 備 費	60,000
計	4,710,000

(2) 特別会計

【収入の部】

単位：円

科 目	元年度予算
前年度繰越金	12,834,938
一 般 分	6,977,914
会費平準化準備金	5,857,024
入 会 金	70,000
会費平準化準備金	300,000
雑 収 入	62
計	13,205,000
一般分	7,047,920
会費平準化準備金	6,157,080

【支出の部】

単位：円

科 目	元年度予算
繰出金	800,000
計	800,000

同窓会長賞の授与

平成31年3月26日、農学部主催による「平成30年度卒業祝賀会」がホテルニューオータニ佐賀で開催されました。この中で在学中に社会貢献活動など顕著な功績のあった古川拓実さん（応用生物科学科）に農学部同窓会長賞（賞状と副賞）が小池良美会長から授与されました。また、馬場嵩一郎さん（生物資源科学専攻）に佐賀大学同窓会長賞（賞状と副賞）が川副操会長から授与されました。



■■ 同窓会長賞 受賞者の手記 ■■



佐賀大学同窓会長賞

農学研究科
生物資源科学専攻
生命化学講座

馬場 嵩一郎

この度は、佐賀大学同窓会長賞という大変名誉ある賞を頂き、誠にありがとうございました。私は、『清酒酵母の育種と醸造特性評価』というタイトルで卒業研究と修論研究に取り組んできました。清酒酵母は清酒の香味を特徴づける大きな要因であるため、清酒酵母の育種は香味のバリエーションを増やすことにつながります。

佐賀大学ではオリジナル清酒『悠々知酔』を佐賀県内の蔵元と共同で製造する活動を行っており、当研究室はこの活動に携わっています。悠々知酔の製造には当研究室の加藤富民雄名誉教授が分離された清酒酵母を使用しており、この酵母はふくよかでコクのある純米酒に適した特徴をもつ清酒酵母です。この佐賀大学オリジナル酵母で10年以上悠々知酔を醸造してきましたが、この清酒酵母だけでは酒質のバリエーションに限界がありました。また、この酵母は、泡あり酵母と呼ばれる酵母であり、醗の管理にやや手間がかかりました。

私は、修論研究の1つとしてもらった悠々知酔製造に使用してきた清酒酵母を育種することで、加藤先生が分離された清酒酵母の良い特徴を保ちつつ、醗の管理がしやすい泡なし酵母の取得を試みました。幸いにも泡なし酵母の取得に成功し、H29年度の悠々知酔の製造に使用することが実現しました。学生の私が育種した清酒酵母を使用した清酒を販売することには大きな不安がありましたが、完成した悠々知酔を飲んで頂いた方から「美味しい」という評価をいただいたこと、また蔵元の方から醗の管理がしやすかったと言って頂いたことに大きな喜びと達成感を感じました。

私は、この他にも清酒酵母の育種に関する研究を行っており、その成果は5つの学会で発表し、第25回日本生物工学九州支部鹿児島大会では口頭発表で学生賞を頂きました。さらに、今年の9月には同学会の学生優秀賞（全国で6名のみ）の受賞も確定しています。また、学内でも研究に対する姿勢を評価して頂き、農学研究科生物資源科学専攻修士論文発表会で最優秀賞を頂きました。

平成31年4月からは鹿児島大学大学院連合農学研究科に進学し、引き続き当研究室で博士課程の学生として研究に取り組んでいます。これまでの経験を糧にこれからも研究に励んでいきます。



農学部同窓会長賞

応用生物科学科
熱帯作物改良学研究室

古川 拓実

この度は、農学部同窓会長賞という名誉ある賞を頂き、誠にありがとうございました。私は卒業研究

で「陸稲NERICAの出穂性と収量性に関する遺伝解析」に取り組みました。この度の受賞はこの研究も少し関わりますが主に、学外での課外活動についてです。

私は在学中、学内での勉強とは別に県内農家との交流や農業インターンシップへの参加、カメルーンへの派遣留学、九州北部豪雨の災害復旧支援といった活動を行ってきました。県内農家との交流につい

ては農業バイトのみにとどまらず農家と学生や地域の方々がフランクに関われるイベントを企画、運営してきました。私自身が農作業や農業の現状を学ぶだけでなく地域の方や学生が農家と直接触れ合うことで地域活性化や食育といった観点で社会貢献になったと思います。農業インターンシップの参加については北海道にて九州とは違った大規模農業の作業形態や経営指針等を学びました。

さらにインターン参加学生同士でその日の農作業から感じたことや自分の変化等をディスカッションすることで自己分析や自己成長に繋げることができました。カメルーンへの派遣留学については上記研究のためのNERICA米の栽培とJICAインターンシップとしてNERICA米普及のための各作業の補助を行いました。研究のための稲作や国際協力としての稲作を学ぶことができました。北部九州豪雨の災

害支援では最も被害の大きかった杷木地区にて民家の中に流れ込んだ土砂の運び出し、家具の搬出、清掃等の作業を行いました。初めての災害支援で分からないことも多かったのですがそれは被災された方々も同じなので一刻も早い復興という1つの目標を目指して多くの方々と協力することの重要性を学びました。

私は平成31年4月より、福岡県糸島市にある実家の事業承継とそれに伴う地域の繋がりを深めるための活動を行っています。佐賀大学に4年間通ったからこそその出会いに感謝し、学んだ知識や得られた経験を存分に活かしながら九州農業の活性化とそれに基づく地域貢献に尽力していきます。また、今まで関わってくださった皆様に恩返しができるように日々精進していく所存ですので今後ともよろしくお願いたします。

■■ 田中欽二氏へ感謝状を贈呈 ■■

～同窓会の基盤確立と有機農業の普及に貢献～

令和元年5月18日、農学部同窓会総会において田中欽二氏（S39年卒 農・保）へ小池会長から感謝状を贈呈しました。農学部同窓会の草創期から今日まで三十年余の長きにわたり役員として同窓会組織の礎を築くと共にその発展に多大な貢献をいただきました。

退職後も新たな視点に立った「自然農」を自ら実践され、耕作放棄地の再生や有機農業の普及・推進に精力的に活躍されています。

受賞後の挨拶で「同窓会設立の当初は赤字会計で会計監査に大変苦慮したが、その後、役員との協力もいただき徐々に同窓会の体制も整っていった」と当時のことを振り返り、また「佐賀県は有機農業の普及が遅れた県であったが、今回の受賞で、これまでの活動が認知されたという気持ち」と述べられ、今後も自然環境に配慮した農法の普及に取り組んでいきたいと抱負を述べられました。



恩師からのメッセージ

佐賀大での教育研究
の日々を振り返って

染谷 孝



この度平成31年3月末に定年退職した染谷です。平成6年に佐賀大学農学部へ助教として着任してから25年間、その前任校の医科系短期大学時代からは37年間、職業として教育・研究生活を続ける幸運に恵まれました。この間、大好きな土壌や環境の微生物の研究を学生たちとともに日々携わることができた喜びで一杯です。

着任して大学本部で辞令をいただいたとき、ちょうど農学部長として辞令を受けられる佐古宣道先生と同席でした。新米助教授の染谷が、後に学長にもなられる植物ウイルス学の権威である佐古先生と肩を並べて辞令式に望んでいたなんて、今から思えばなんと光栄なことだったかと思います。

さて初めて農学部の教授会に出席したとき、教育研究や学部・大学運営をめぐる活発な議論がなされるのを目の辺りにして、さすがは国立大学だと感心しました。前任校では教授会は教授だけの構成で、教授以外の教員で組織される教員会議というのが別にありました。しかし教員会議でいろいろ議論しても教授会で蹴られ、教授会の決定は学長に簡単に一蹴され、学長の意向は理事長に覆されました。こんな経験をしてきた人間には、助手以上の教官が全て参加して学問の府を支える気概に溢れた教授会の様

子を見て、佐賀大学に着任できたことの喜びをひしひしと感じたことでした。

当時、佐賀大学農学部では黙っていても助教授として基盤的な教育研究費が年間約120万円、卒論生と修士学生各1名の指導経費で約20万円、計140万円をいただきました。これに連大経費を加えると200万円近くにもなり、スタートアップ資金とせずいぶん助かりました。特に、ネットもメールもない当時、研究情報収集のために関東圏の大学や研究所、省庁を回るための旅費を確保できたことは大きく、これが数年後には、科研費や各種外部資金となって戻ってきました。財団系の研究助成金も今のように競争が熾烈ではなく、応募すれば打率は3割以上で、しばらくは次々と各種財団を「渡り歩いて」研究費を得ることが出来ました。

佐賀大学の学生さんたちの多くはノンビリかつ素直で、「ほらっ、この研究テーマって、すごく面白いでしょ!」と説明すると、よく理解して、目を輝かせて実験や調査に取り組んでくれました。卒業論文や修士論文の執筆の際は、学生の書いた原稿を何度も真っ赤になるほど添削しましたが、それに耐えてくれて質の高い論文を皆が書いてくれたと思います。卒論発表会や学会発表の時にも、発表前には原稿をよく練ってよく練習して、ノー原稿で立派にプレゼンする学生たちばかりでした。おかげで就職先からは「即戦力としてバリバリやってくれている」「考えがしっかりしている」「プレゼンがうまい」「新しい技術を入れてくれた」などと、好意的な声ばかりが聞こえてきました。教師冥利に尽きるということです。たまに「あんなに立派な修士論文を書いたのに、仕事は今ひとつだ」と言われる場合もありましたが、「それは上司であるあなたの指導が悪いせいですよ」と心の中で言い返しました。

2000年代後半以降になって、精神的にデリケートな学生や保護者が増えて来たように感じます。そんなときには教員である自分もよく勉強して教育指導法を改善しないといけないと思いましたが、保健管理センターの先生がアドバイザーとして大きな支えになってくれました。

若い頃は一度に6つも7つもプロジェクト研究を抱えていた時期もありましたが、60歳を過ぎる頃になると、同時に複数の事柄に気を配ることが苦痛になってきました。老化現象です。やはり「定年退職すべき年齢」というのは個人差はあるとしても、厳然と存在するのを実感しています。さて退職した今は、何でもマイペースで進めることができるという幸運を満喫しています。在職中は突き進むことばかりに忙しく、まだ論文文化していないデータがたくさん残ってしまいました。それらをひとつずつ論文に

まとめたいと思います。また、市民や農民に分かりやすい土壤微生物の本を書いたりもしています(年内には出版できたら良いなど)。でも、もとより遅筆(染谷=お染め=遅め)もあり、なかなか進まないです。それと、後任人事がないため、土壤学などの授業を非常勤講師として引き続き担当する必要があります、これはこれで楽しんでいます。でも、後任には早く来て欲しいです。



NHKサイエンスゼロに出演 (2015年6月)

また当分は客員研究員(招聘教授)として、一部の研究設備を引き続き使用させていただいています。外部資金を受けてのことですが、合間に、蛍光顕微鏡を使って土壤微生物の写真をたくさん撮って、それらを写真集にまとめることが出来たら良いなど考えています。思えば医大時代、本業を終えた夕方5時から土壤微生物の研究をしていました。この「5時から男」が、圃場も温室もない環境であってもスプーン一杯の土で研究できるテーマとして、蛍光染色による土壤微生物の可視化に取り組みました。あの頃の初心に立ち返って、土の中の微生物の世界をビジュアルで紹介する作業に取り組んでいきたいと考えています。

最後に、個人的な趣味としては念願の「ネトゲ廃人」を目指します。とりあえず、アイドル育成ゲームのプロデューサーになりました。仮想空間でアイドルを育てるのです。これが個性豊かなアイドルの卵たちで、アイドル志望なのに対人恐怖症だったり、アイドルになりたくないアイドルだったり、それをいかにして自身の個性に気づいてもらって才能を開かせるか、なんだか在职中にやってたことと余り変わらない気がしてきました。

いま大学は大きな変革期にあり、大学教員は研究者としても教育者としても、とても過酷な状況にあります。教授会も准教授以下が閉め出され教授だけの会議になり、その教授会でも人事権や予算権は別組織に移りました。しかし教育研究の本質は変わらないと思います。次世代をになう若い人たちを教え、ともに希望を語ることは昔と変わらないはずです。先生方のご健康とご健闘を祈ります。

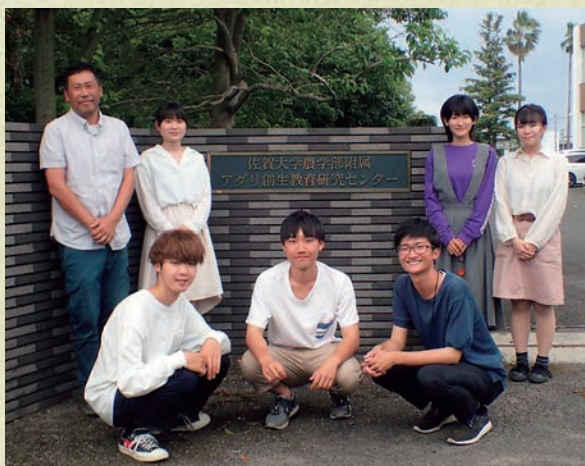
農学部研究室紹介 その⑭

農学部附属アグリ創生教育研究センター アグリ資源開発学分野

准教授：福田 伸二

本施設は昭和24年に佐賀大学が設置されると同時に大学附属農場として旧佐賀青年師範学校所在地（佐賀市久保泉町）に設置されました。平成15年には資源循環フィールド科学教育研究センターに改組され、その後、平成24年に海浜台地生物環境研究センターと統合されアグリ創生教育研究センター（アグリセンター）となりました。現在は久保泉および唐津にキャンパスがあり、合計8研究室が教育研究を行っています。同窓会の皆さまは、新入生歓迎会のバーベキュー時や農場実習として来場された記憶があるのではないのでしょうか？

さて、アグリ資源開発学は久保泉キャンパスにあり、生物資源科学科生物科学コースに属します。現在の研究室のメンバーは准教授1名、4年生3名、3年生3名と非常に少数で立上げ後、合計10名の卒業生を送り出したばかりの新しい研究室です。



福田は佐賀大学を修了後、長崎県において果樹の育種研究や行政に携わってききましたが、平成26年4月にアグリセンターへ移籍してきました。現在、果樹におけるDNAマーカー育種技術の開発と栽培技術の確立を中心に研究しています。特にアグリセンター内の広大な圃場に定植した数百本のビワの形質評価と我々のチームが取得した世界初のビワ概要ゲノム情報を基に、効率的な果樹育種技術の開発を行っています。具体的には佐賀大学総合分析実験センター、国立遺伝学研究所および東京工業大学と共同で解読した720Mbのビワ概

要ゲノム情報を基に、ゲノムワイドアソシエーション解析や有用遺伝子の単離および有望系統を早期選抜できるDNAマーカーの開発等を行っています。今後、果樹の育種現場に活用できる技術として多くの情報を発信していきたいと考えています。

さらに佐賀大学内の複数の教員と連携して「すくすく野蒜プロジェクト」を立上げ、ネギ属のノビルの農作物化に関する研究も行っています。ノビルは東アジアに広く生息する多年草の野生ネギ属植物で、タマネギやニンニクに似た香りを持つ食用植物です。しかしながら、日本において農作物として栽培化されておらず、機能性成分の面からもとても将来性のある植物と考えています。我々のグループは現在、日本で最も多くの野蒜を遺伝資源として所有しており、農作物としての栽培化を目指し、同時に未知の潜在的な能力を引き出し、様々な分野に応用することを目的に活動しています。

アグリセンターにおいては、日本農業技術検定の取得も積極的に進めています。日本農業技術検定とは、農業を学ぶ学生や農業を仕事にしたい人のための検定で、農業についての知識・技能の水準を客観的に評価し、教育研修の効果を高める事を目的として、日本農業技術検定協会（事務局：一般社団法人全国農業会議所）が実施している検定です。本学が平成29年度および平成30年度において農業技術検定2級（大学等の部）の最優秀団体として、同協会より表彰されるなど我々の活動は着実に実を結んでいるところです。

最後に、地域と共に発展する大学の一研究室として、皆様のお役に立てればと考えております。同窓会の皆様のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。



農学部の新たな教育プログラムスタート ～アグリキャリアデザイン～



農学部では、本年4月の学部改組に合わせ新入生約150名を対象とした新科目「アグリキャリアデザイン」をスタート。本科目の狙いは、農学部に入学生が、自らの大学生活や卒業後に実践する専門を生かした職業や社会活動について、自らが主体となって構想するための参考となるキャリアモデルについて概説する内容。具体的な授業では農林漁業や農山漁村に関連する活動を実践している農業経営者や女性、地域企業人、行政担当者や教育関係者、JA等団体職員等の実践家を中心に招聘していくこととしている。

農学部同窓会員でもある光武美和さん（H19年卒 生・地域：佐賀県庁園芸課）、荘山淳史さん（H8年卒 応生・資化：佐賀県庁農政企画課）、山口郁雄さん（S52年卒 農・経：嬉野特別支援学校）、MOT8期生の上野勉さん（ハウスミカン農家）、MOT9期生の白井秀直さん（日本政策金融公庫佐賀支店）が、自らの経験を踏まえ、仕事の魅力やキャリアアップに向けたポイントについて講義した。今後も多様な分野で活躍されている実践家の講義が予定されており、農学部同窓会としても積極的に協力・支援していくこととしている。

内海修一（S49年院修了 農経）



若手OB・OGからのメッセージ

生徒の成長を実感することができるやりのある仕事！

佐賀県立高志館高等学校 梅崎 悠帆
(H28年卒 応・線虫)

佐賀大学農学部を卒業して3年が経ちました。現在は農業を専門的に学習する高志館高校に農業科の教員として勤務しています。みなさんは「農業高校」にどのようなイメージを持っていますか？農業高校では学科ごとに、植物の栽培や動物の飼育に関する学習、森林・土木・造園など地域環境に関する学習、食品加工や流通に関する学習など幅広く扱います。また、生産物の販売や、畑での芋ほり体験など地域の方との交流も積極的に行っています。

私は食品流通科で授業を担当しています。今週は、



クッキーの製造を行いました。教室では、使用する材料について、焼き色がつく原理、微生物の繁殖を防ぐ方法などあらゆる面から学習します。

そしてその知識と関連付けながら製造室で実習を行います。できた生産物は生徒が販売します。もちろん、接客マナーや販売方法についても学習していきます。とまあ、偉そうに書いていますが実際には、授業でわかりやすく説明することができなかつたり、作業をスムーズに進める指示ができなかつたりと、悩んだり反省したりの日々です。それでも、生徒のさらなる成長のために私にできることを精一杯取り組んでいこうと思っています。

この原稿を書きながら、ふと思い返すと、大学で過ごした4年間は充実した日々でした。特に線虫学研究室では、様々な実験の手法や研究の進め方を教えてもらいました。4つの研究室で行われる合同ゼミでは、論文紹介を見てもらって鍛えていただきましたし、たくさんの仲間ができました。大学での日々が今の私を作っていると実感しています。

最後に、在学生の皆さんへ。農学部では理科の免許だけではなく農業の免許も取ることができます。教科「農業」の教員は教室での座学だけではなく様々な実験、屋外での実習もあり苦勞することもあります。がなにより生徒の成長を実感することができること、また生徒と共に学び自らも成長できることに魅力とやりがいを感じます。是非、農業の教員、目指してみませんか？

大学生の間でできるだけ選択肢を広げる！

福岡県JAみい太刀洗中央支店金融共済 平山 翔
(H28年院修了 資源循環生産学専攻)

私は佐賀大学農学研究科作物生態生理学研究室でマメ科植物のホウ素輸送体について研究しておりました。また、副コースとして農業版MOTも受講し、農業の経営や歴史等を学びながら、農業に携わる仕事をしている方々と出会いました。大学院終了後、農業版MOTで刺激を受けた私は、将来、農業経営をやりたいと考えるようになりました。そこで農家と関わりのある仕事に就きたいと思い、地元のJAみいに就職しました。現在は渉外担当をしており、農家に訪問してライフアドバイスをしております。就職した当初は農業と関係のない部署に配属され不満を持っておりましたが、何事も経験になるととらえ日々努力をしていくうちに、農業経営をするために必要なことは農業の技術や知識だけではないと思うようになりました。その中のひとつがリスク管理に関することです。農家の場合、一番の資本は自身の体だと思います。もし、病気や怪我で仕事ができなくなってしまった場合、会社員とは異なり、収

入が著しく減ってしまい経営自体が成り立たなくなる恐れがあるからです。その対策として医療保険や傷害保険、貯蓄などがあるため、ライフアドバイスという今の仕事も将来自分が農業経営者になったときに必要な知識になるなど感じています。

学生の皆さんは大学が楽しいと感じる人も辛いと感じる人もいます。その要因の一つは高校生までと比べ、大学生は選択の数がとても多くなるからだと思います。そのため大学生活をより充実させるために、アルバイト、海外旅行、幹事など様々なことを経験した方が良いと思います。それは、何事も一度経験することで自分の考えに刺激を与え、次の選択をする際の根拠となってくれるからです。大学生のうちにこの選択の根拠をたくさん集めることが出来れば就職活動や社会人になってからも成果を上げることが出来ると思います。ぜひ、自由な時間が多く、何度も選択をやり直すことが出来る大学生のうちにたくさんの成功や失敗を経験してみてください。



支部だより

農学科

“仲間との灯”を消さない 72A農学科入学 同窓会

11月10日、佐賀市三瀬村「農家民宿“具座”」において72A（1972年農学科入学）の同窓会を開催した。この同窓会は卒業時より毎年実施しており、今年で42回目となる。今回の参加者は残念ながら8人（多い時は12～13人）の出席となった。今年のコンセプトは「佐賀牛を食べ、どぶろくを飲み、囲炉裏を囲んで大いに語ろう」である。「五右衛門」風呂に入り、午後7時頃から囲炉裏を囲み懇親会が始まった。まずは、各自より近況報告、自分、家族、孫、また参加できなかった同級のこと、自然災害、グリーンツーリズム、食の安全性等、話題は広がっていく。そして必ずいきつくのが、我々の青春を過ごした学生時代（S47～51年）のことである。授業料値上げ反対闘争、農学部自治会委員長への擁立、大学祭でのみこしづくり、バザーへの出展、九重への研修旅行（先生曰くこれほどバカ騒ぎをしたのはこれまでにない）、農場実習、仲間の恋愛等…。よく考えると毎年出てくる内容である。しかし、その内容で盛り上がるのは、各自が自分の青春時代に還り、佐大で、72Aで充実した日々を過ごした良き思い出とし

て確認できるからではないだろうか。

ふと、時計を見るととくに午後10時を過ぎていた。その日は、早い人で12時過ぎ、遅い人は翌日の2時（始まって7時間）まで話が続いていた。

朝、まだ酒の匂いが残っている中、食事（漬物、味噌汁、ごはん）をしていると、だれともなく、「この我々の“仲間との灯”をこれからも消さず、今後もしっかり続けていこうや」と、みんな頷く。来年は熊本県が幹事（佐賀、熊本、福岡の順で担当）。その後、近くでリングオ狩りをし、みんなで来年ぜひ再会することを誓って解散した。

今岡 靖弘（S53年院修了 農経）



佐賀県教職員支部

佐賀県教職員支部総会が12月1日（土）、会員19名が参加し、佐嘉神社記念館で開催されました。冒頭の青木支部長の挨拶では、会員の皆さんが、それぞれ農業系高校をはじめ、所属校において中核となって学校の充実・発展に尽力していただいていることに対して感謝の意を述べられました。また、平成29年度は、まず、農業系高校会員からの会費納入の促進を目標に掲げ、終身会費や年会費など多くの会員から会費納入の協力があつたという報告があり、引き続き、今後も会費納入のお願いがありました。

その後は、平成29年度分の会計報告・監査報告を終え、平成30・31年度の教職員支部役員の確認を行いました。また、会員の皆さんに、農学部同窓会のことを理解していただくために、支部長からは、平成30年度の役員体制、事業内容、収支予算（一般会計、特別会計）のことについて、資料を準備して説明がありました。特に、近年、会員の会費納入が思わしくないことから、それが一般会計の収入減につ



ながり、事業運営を圧迫しており、特別会計からの操出金による対応を余儀なくされていることを強調されました。

総会行事終了後には、懇親会を行いました。来賓として農学部同窓会の副会長 吉賀豊司様にご臨席をいただき、会員との良い交流の場となりました。来年は、より多くの会員の皆様が参加されることを祈念いたしまして報告とさせていただきます。

松尾信寿（S63年卒 園・果）

佐賀県庁支部

平成31年3月末日で佐賀県庁を退職される先輩をお招きして、3月13日にグランデはがくれにおいて、「先輩を送る会」を開催しました。

退職された先輩は、溝口宜彦先輩（農業大学校）、吉浦純孝先輩（農業試験研究センター）、江里口博先輩（伊万里農林事務所）、船津哲也先輩（佐賀中部農林事務所）、中村俊範先輩（武雄県税事務所）、森永孝茂先輩（東松浦農業改良普及センター）、豊増紀彦先輩（杵藤農林事務所）、山口鶴美先輩（入札・検査センター）、古賀芳文先輩（伊万里農林事務所）、宮島恒晴先輩（畜産試験場）、吉松修司先輩（唐津農林事務所）の11名でした。

このうち、7名方に出席していただき、会員79名の出席がありました。

口木文孝監事の先導による先輩方の入場に始まり、石橋泰之副支部長の開会、成澤義和支部長のあいさつ、記念品と花束の贈呈、先輩を囲んでの記念撮影のあと、南里敏彦さんの乾杯で歓談に移りました。会員の皆さんは先輩方と昔話に花を咲かせ、大いに

盛り上がりました。途中、全員で旧学生歌「楠の葉の」を合唱し、最後は広田雄二さんの万歳で会を閉めていただき、恒例となっている出席した会員全員で作ったアーチで先輩方を見送りました。今年度は多くの先輩方が退職され、準備に手間取りましたが、この会を滞りなく終わることができて、幹事一同「ホッ」としています。

八田 聡（S63年卒 園・果）



佐賀県支部

令和になり、最初の佐賀大学農学部同窓会佐賀県支部総会を5月10日（金）グランデはがくれにおいて開催しました。来賓、新会員を含め32名の参加があり、盛大な総会になりました。まず、はじめに山口俊治支部長（S49年卒 農土・改）が「会員も113名を超えて、ますますこの会を盛り上げていきたい」と挨拶、続いて来賓として出席いただいた農学部同窓会の小池良美会長（S56年卒 農・経）より、同窓会の近況とあわせて「今後、一層同窓会の情報発信を進めていきたい」とのご挨拶をいただきました。

議事では決算報告、事業計画・予算案とも全会一致で承認されました。

今年度は、新入会員が8名と多く、当日は船津哲也氏（S58年院修了 土改）と古賀芳文氏（S57年卒 化・食）の2名が参加されました。また、農学



部同窓会長表彰として田中欽二先生（S39年卒 農・保）を県支部として推薦し、農学部同窓会総会において感謝状が贈呈されることが報告されました。

総会后、川副 操全学同窓会長の乾杯の音頭で懇親会に移り、参加者全員がそれぞれの近況をユーモアを交えて語り、爆笑の中、和やかなムードで大いに盛り上がり、最後に、水田和彦氏（S51年卒 農土・機）が巻頭言を朗々と詠い上げ、その後、佐賀大学学生歌を皆で合唱し、肩を組みつづ懇親会を閉じました。山口郁雄（S52年卒 農・経）

神 崎 支 部

神崎支部の再開と学長就任祝賀会

4月20日（土）、吉野ヶ里温泉ホテルにおいて、神崎支部総会並びに木村務氏（S49年院修了 農経）の長崎県立大学学長就任祝賀会を、小池良美農学部同窓会長を来賓としてお招きし、開催しました。

神崎支部とは、現在の神崎市、吉野ヶ里町、及び佐賀市三瀬村で、卒業生は、前農学部同窓会長・前佐賀大学同窓会長の金丸安隆氏、田中欣二先生、白武義治先生を含め108名です。

今回は昭和39年から平成5年卒業までの幅広い年代の17名が参加され、総会後の懇親会はたいへん盛り上がりしました。もともとこの会は、平成26年4月、2人の先生と石井正實氏、原憲義氏、永淵隆昭氏、湯越昭氏等が世話人となり、農学部同窓会「神崎・吉野ヶ里地区交流会」を開催したのが始まりです。

その後、前金丸全学同窓会長が同窓会の方針とし

て、佐賀県下に全学部同窓会地区会の発足を呼びかけられ、神崎地区では、平成27年8月に県下で最初の地区会が発足しました。

この過程で、私を含めて世話人数名は、農学部同窓会支部を解消し、地区会へ移行したものと思って、支部同窓会は、休止していました。その後、「農学部同窓会はどうなったのか？」等の問い合わせがあり、昨年に世話人会を開き、農学部同窓会支部の再開を決めました。その折、私の同級生であります木村務氏が、平成31年4月から長崎県立大学の学長に就任するという情報が入り、今回、同氏の祝賀会を合わせた記念すべき同窓会となりました。なお、支部存続のために会則を定め役員を選出しました。今後は内容の充実を図っていきたくと思っています。

花田健児（S47年卒 農・病）

木村 務氏が長崎県立大学学長に就任

農学部同窓会員である木村 務氏（S49年院修了 農経）が平成31年4月1日、長崎県立大学学長に就任されました。同氏から農学部同窓会あてに「グローバル・デジタル・少子高齢時代のもと、多くの地域が人口減・産業衰退・コミュニティ存続の危機に直面しています。私は、長崎県立大学の学長に就任するにあたり、佐賀大学農学部の人材育成の輝かしい歴史を範として、地域産業に革新を起し、地域社会の維持・発展を担い、リーダーとなる人材の育成を第一の目標に掲げました。目下、非力を顧みず全力で大学運営に携わっているところです。どうかご指導・ご支援賜れば幸いに存じます。」というメッセージをいただきました。木村学長の今後のご活躍を同窓会会員一同、祈念しています。



農業自営者の会

農業自営者の会総会を平成31年4月27日土曜日18時30分から佐賀市内の小料理店久坊で開催しました。毎度の事、会員全てが超多忙で、日程調整が難しく13名が参加しました。大庭英二会長の冒頭挨拶後、ご出席頂いた小池良美農学部同窓会会長にご祝辞と大学及び同窓会の近況についてご報告いただきました。大庭会長が、次回、九州全域の同窓の農業自営者を対象に拡大「農業自営者の会」開催の提案をし、本会です承されました。その後、高木胖先生の乾杯の音頭で交流会になり、出席者全員が順次近況報告をしたが、印象深いのは、「経営規模を拡大した」「農業は高齢になってもゲートボールするよりははるかに魅力的」などの発言であり、皆さん元気に農業で頑張っておられました。

さらに、自営者の会の思い出話として、「佐賀県



知事を佐賀大学農学部大会議室にお招きし、佐賀県農政について討論した事」「毎年の総会では勉強会を企画し、同窓生の中から農政事情に詳しい方に講演をお願いした事」などが話題に上りました。楽しい一時を過ごし、最後に、九州全域から参集する拡大「農業自営者の会」で再会することを誓って散会しました。

白武義治（S51年卒 農・経）

編集後記

- 令和の時代を迎え、農学部同窓会員の皆様には、ますますご壮健でご活躍のことと拝察いたします。
- 新元号下での新たな挑戦が期待される中、農学部では組織改組を契機に、新たな教育プログラムがスタートし、研究分野でもこれまでの研究領域に加え「有明海」を対象とした水産系の研究が本格スタートしました。豊饒な有明海の再生に向けた研究推進と地域貢献が大いに期待されます。
- 長い間、農学部の教育・研究の推進や同窓会の発展にご尽力を頂いた光富勝教授（食品化学）、染谷孝教授（資源循環生物学）が今年3月にご退職になりました。

た。これからも農学部ならびに同窓会の発展のためにご指導・ご支援をいただきますようお願いいたします。

- 若手OB・OGからは、仕事のやりがいやキャリアアップに向けたアドバイスなど在学生にとって貴重なメッセージを頂き、また各支部の活動の様子などご寄稿いただきました会員の皆様に厚くお礼を申し上げます。今後とも全国各地で活躍されている会員の姿をできるだけ多く収録し会報の充実に努めたいと考えていますので、どうぞよろしくようお願いいたします。

編集担当：内海 修一（S49年院修了 農経）

協賛広告

この度の同窓会報発刊に際しまして、皆様より協賛広告をお寄せいただき誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げますとともに、協賛各社の今後のご発展をお祈り申し上げます。



Grain & Pet Care Communication

株式会社 森光商店

〒841-8611 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜9-7
PHONE.0942-85-1125(代) FAX.0942-83-8868

ホームページ <http://www.morimitsu.co.jp>

ホテルニューオータニ佐賀 PRECIOUS INFORMATION

ホテルニューオータニ佐賀

Beer Terrace ビアテラス

2019 5/7(火) ▶ 9/21(土)
18:00~22:00 (21:30L.O.)



Plan

前日までの要予約
※各コース2名さまより承ります

夜風を感じながらゆっくりと料理を楽しむ

¥5,000 (税共)

料理7品+フリードリンク(90分)

※写真は¥6,000プランメニュー例(4名さま用) ¥4,000-¥6,000プランもご用意しております。

フリードリンク ●生ビール ●ハイボール ●ワイン ●焼酎 ●ウイスキー ●ノンアルコールカクテル ●ソフトドリンク

[オプション] プラス¥500でフリードリンク90分を120分に変更できます。

◆営業期間特典

①グループ特典 プラン20名さま以上のご予約で **グリーンブリーズ ランチビュッフェペア券1枚プレゼント**

②宿泊優待 ツインルーム特別価格 20時以降のお申込みで **1室 ¥7,000** (サービス料・消費税共)

◆マンスリー特典

7-8月 月~ホ プランご予約特典 **フリードリンク 90分 ⇒ 120分** ※特典の併用は不可

お得で
うれしい特典を
ご用意しました

■ご予約・お問い合わせ TEL.(0952) 25-9002

The New Otani

ホテルニューオータニ佐賀

〒840-0047 佐賀市与賀町1-2 TEL.(0952) 23-1111(代) www.newotani-saga.co.jp

サラダ油・小麦粉といえば、 やっぱり理研



理研農産化互株式会社

本社 〒840-8691 佐賀市大財北町2番1号

TEL/0952-23-4181 (代)

FAX/0952-29-9553

URL <http://www.riken-nosan.com/>

安全・安心な「佐賀の食」。
協同の力で支える「佐賀の農業」。

JAグループ佐賀は、食と農を基軸とした協同組合として、
皆さまの豊かな暮らしを支えていきます。



耕ぞろ、大地と地域のみらい。
JAグループ佐賀

